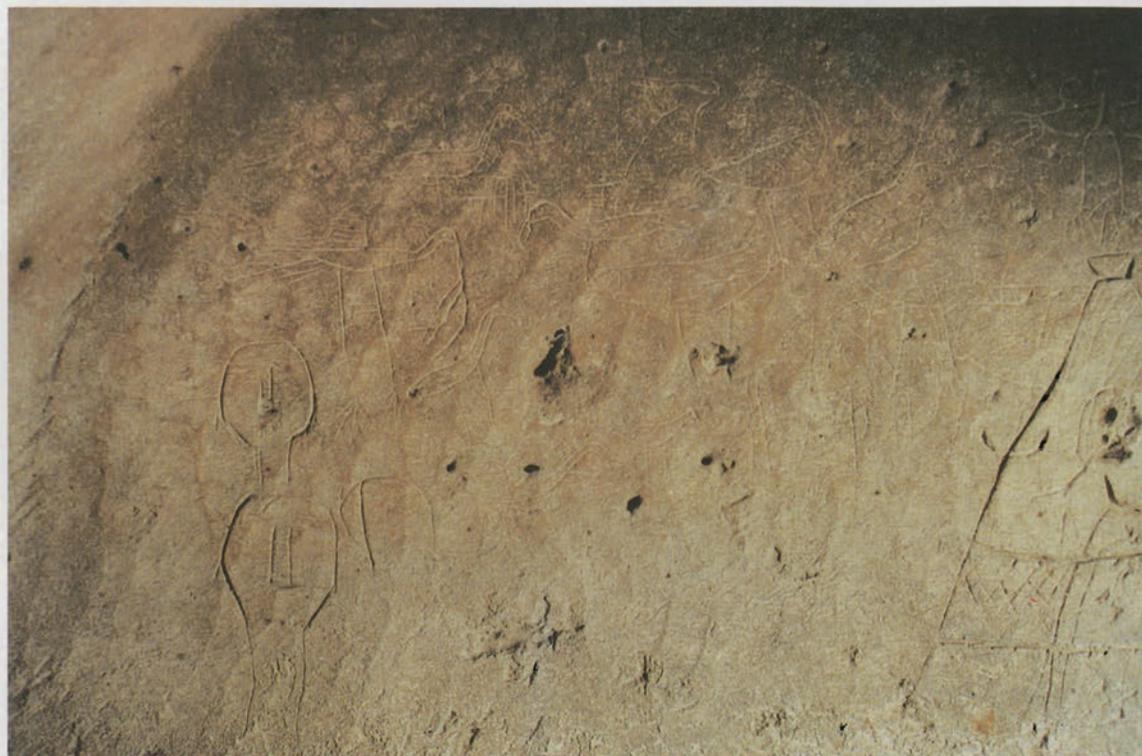


# 房総の文化財



長柄町横穴群徳増支群  
第13号横穴墓

## よみ 黄泉の国を見守る せん せん へき が 線刻壁画

平成 5 年 10 月に調査を実施した長生郡長柄町にある長柄町横穴群徳増支群の中の 1 基から、線で刻まれた壁画が発見されました。

この横穴墓は、山の斜面に横穴をあけて死者を葬る古墳の一種で、古墳時代に造られたものです。長生郡一帯は、全国的に見ても造りの立派な横穴墓が多いことで知られています。写真の線刻壁画は、横穴の突き当たりの奥壁に描かれたもので、左から人物(顔)・水

鳥・建物などがあり、右側には三角形の建物とその中に人物が見えます。絵の描き方はやや雑然としていますが、これだけ多くの種類の絵が描かれているのは大変珍しいことです。

さらに、写真の両脇の壁(左右壁)にも波状の線・船・水鳥・人物・建物などの生前にちなんだ景色が取り囲むように描かれており死後の世界をやさしく見守っている様子がうかがわれます。(加藤)

## 発掘調



カマドの近くから出土した土器  
(奈良・平安時代)

ツクの石器群が見つかりました。

また、縄文時代後～晩期の遺物包含層からは、石鏃（矢じり）の製作跡を思わせる多量の未製品が出土しました。（白鳥）



環状ブロックの石器群  
(旧石器時代)

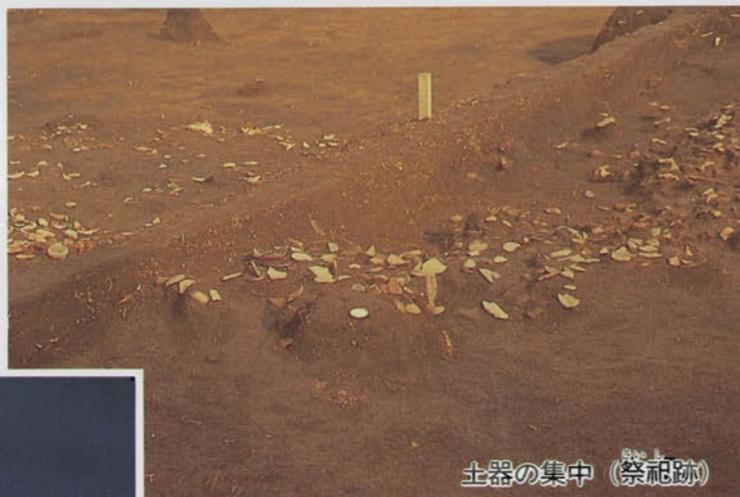
### 四街道市小屋ノ内遺跡

四街道市物井の台地上にある遺跡です。平成元年から調査が行われ、旧石器時代～中・近世にわたり、竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが発見されています。

とくに旧石器時代においては直径約40mにもおよぶ環状プロ

### 奈良時代のお祭り跡

千葉市中央区生実町にある種ヶ谷津遺跡は、古墳時代（6～7世紀）を中心とした大きなムラの跡ですが、今回の調査では8世紀中頃～後半とみられるお祭りの跡が発見されました。それは遺跡北側の谷に面した斜



土器の集中（祭祀跡）

面にあり、儀式用の小さな鏡（佐波里という銅と鉛の合金で作ったペンダント）・奈良三彩の小壺などと共に、非常に多くの土器が集中的に出土しました。（百瀬）



奈良三彩（フタ2点と小壺片）

## 査速報

### 印西町南西ヶ作遺跡

遺跡は、ニュータウン中央駅から少し東へ行った所にあります。調査では、平安時代の住居跡（9世紀前半）が約20軒発見されました。



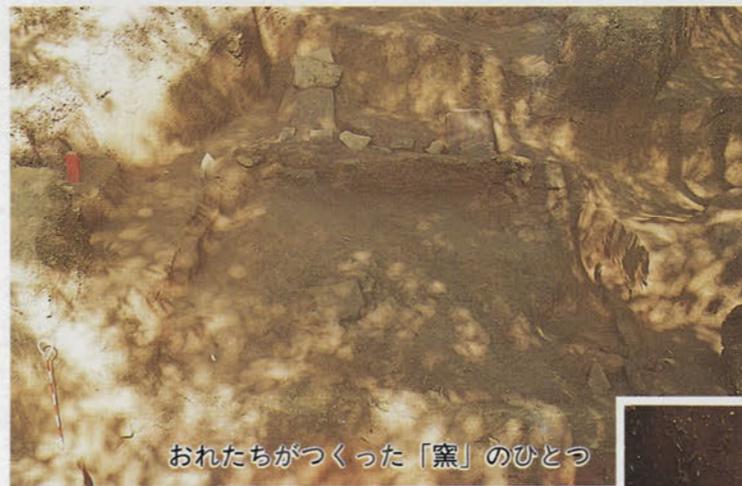
瓦の出土状況



瓦が出た竪穴住居跡

このうちの2軒から、古代の瓦が1枚ずつ見つかりました。この瓦は、奈良時代に造られた寺（大塚前遺跡）に使われていた瓦と似ています。1kmの道のりを当時の人が大切に運んでいることが想像されます。何のために拾ってきたのでしょうか。

（及川）



おれたちがつくった「窯」のひとつ

てよ、という命令が出された。おれたちの仕事は、「窯」をつくり、寺の屋根に葺く瓦を焼くことだ。瓦を焼くには、材料の粘土や薪・水などがたくさん必要で、ここは川にも近く、焼きあがった瓦は舟で運べるので、いい場所のひとつなんだ。

（田形）

### 瓦職人の「ひとりごと」-市原市川焼瓦窯跡-

おれたちは、奈良の都から上総国にきた瓦職人だ。今度、各地の国の中心地に「国の寺」である国分（僧）寺・国分尼寺のふたつを建



できが悪く、捨ててしまった瓦

# 古代のムラ栗焼棒遺跡



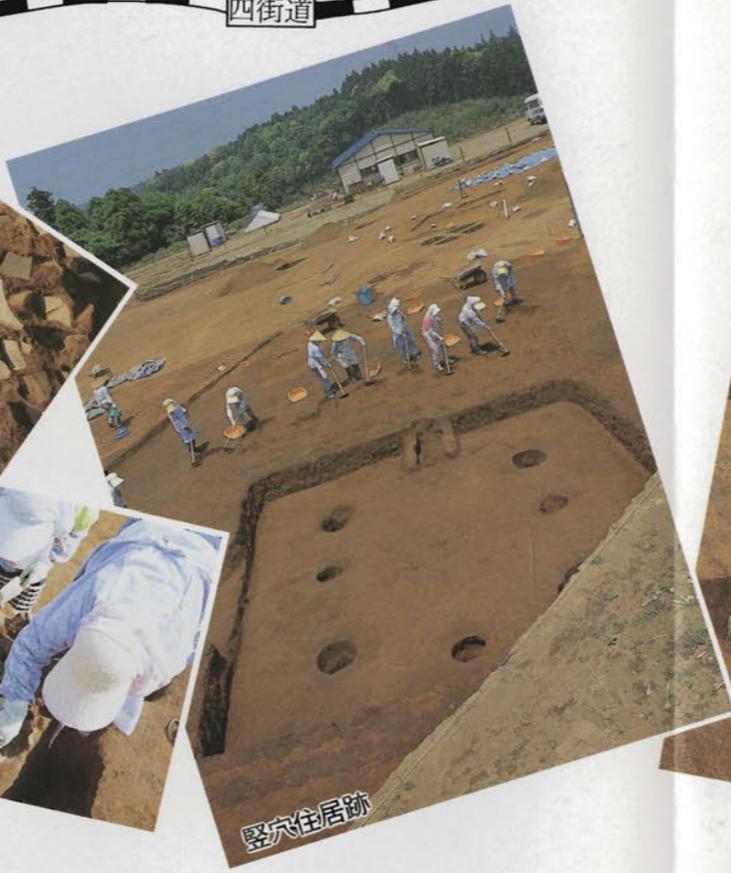
手と土器



風景



調査風景



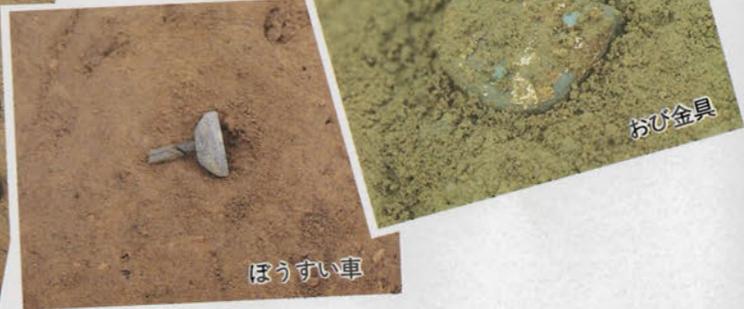
竪穴住居跡



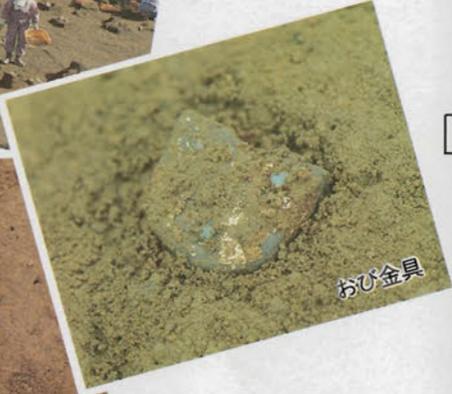
掘立柱建物跡



風景



ほうすい車



おび金具



全景

JR総武本線の下り電車(千葉発銚子行き)が日向駅を走り出し、ゆるやかなカーブを曲がり、成東の街が見え始めたころ、電車の左窓に広がる山の上にある遺跡が栗焼棒遺跡です。山武杉がまわりをとりかこみ、電車の窓から見ることはできませんが、今日は、写真で栗焼棒遺跡をのぞいて見ましょう。

中央左の写真は、今から1,300年ぐらい前(古墳時代後期)の住居のあとです。ここからは、たくさんの住居のあとが発見されまし

た。かたくしまった床の下からは、柱穴が見つかり、建て替えが行われたことが分かりました。住居の建て替えは、古い家を広く造りかえたもので、中心から四方に広がるものや一方の隅を基準に拡張するもの、カマドや入り口を基準に広げたものなどさまざまです。すべて、小さな住居を大きくしていることから家族が増えることによって、家を造りかえたのかもしれない。この住居も三度の建て替えによって、写真のような大きさになった

ことが分かりました。

中央右の写真は、掘立柱建物のあとです。補助員さんたちの入っている穴(柱穴)に柱を立てて、現在でも見られるような建物が建っていました。梁行3間(写真の左右の柱の間の数)、桁行9間(写真の上下方向の柱の間の数)が1棟確認されました。また、梁行4間×桁行10間の掘立柱建物も見つかっており、今から1,250年ぐらい前(奈良時代)の役所の建物であったのかもしれない。

そのほか、ここからは、旧石器時代の石器群・平安時代の竪穴住居跡・中世の溝・江戸時代の塚などが発見されました。また、この周辺には駄ノ塚古墳など古墳群が数多くあります。

もし、JR総武本線の車窓から栗焼棒遺跡のある台地を見る機会があったら、ここに住んでいた人たちの生活を想像し、古代のロマンにひたってください。(半澤)

# 埋蔵文化財アラカルト

## シリーズ 住まいの移り変わり 第5回 古代

古代（奈良・平安時代）に入ると、人々の住む家はそれまでと同じような**竪穴住居**のほかに、**掘立柱建物**という住居が登場します。これは竪穴住居のように地面を掘り窪めずに柱だけ地中に埋めて作るタイプのものです。住居としてだけでなく、倉庫などにも利用されていました。掘立柱建物には高床の建物と地面をそのまま床にした建物があったようです。下の絵を見ていただくとわかるように、住まいの形態はより現在に近づいているようですね。

これまでは、竪穴という限られた空間の中



掘立柱建物跡

に柱を立て、屋根を葺いていました。しかし掘立柱建物の建て方ですと、柱の数や配置・太さを変えることによって、ある程度自由に家の大きさや形を作ることができるようになります。当時の都、平城京（現在の奈良市）では一辺が1.5mにもおよぶ柱穴も見つかっています。

一方の竪穴住居ですが、縄文時代以来長い間続いた歴史も平安時代になると急速に衰え小型化してしまいます。こうした竪穴住居は一辺が2mほどしかなく、カマドも小さく、床が軟らかく、柱穴が見つからないものが多いようです。上には、テントのように屋根を掛けていたのかもしれませんが。（立和名）



竪穴住居跡

### まちがいさがし



（絵 横山）

### 前号の解答



カマドが壁から離れているのがまちがいでした。カマドは壁にくっついていて、煙出しの穴が屋外に出るのがふつうです。（萩原）

## Q & A

### 1. 炉とカマドは、どちらがうの？

炉は煮炊きの他に暖房や照明といった役目も兼ね、縄文のむかしから家のなかにはありました。カマドは壁際に囲いを作り、熱が逃げないように、また屋外に煙を出すよう工夫して煮炊き専用となりました。これは朝鮮半島から伝わった技術で、1,550年前に全国に広まりました。その後いろいろ形をかえてきましたが、いまでは古い家で囲炉裏やレンガ造りの竈を見かけるだけになってしまいました。

（谷）



① 台所のまわりのようす



② 真っ赤に焼けた内部



③ 煙突の掘り込み

流山市上貝塚遺跡 5号住居跡（古墳時代後期 -1,400年前-）

### 3. 黒曜石とは、どんな石ですか？

若者は、山で拾ってきた黒い石をほかの石でたたいてみた。パーン！黒い石が割れてかけらがあたりに飛び散った。

「いたーっ！」若者は、いっしゅん自分の手をおさえた。

「どうした！」まわりにいた彼の仲間がかけよってきた。

「おお！血だ。手にけがをしているぞ。早く手当をしないとたいへんだ。」

「いや、たいしたことはない。それよりも見ろ、この石を！これは、すばらしい切れあじだ。ちょっとふれただけで、おれの指がこんなに切れたんだぞ。」

手にけがをした若者は、あらためて黒い石を仲間にかざした。

### 2. カマドって、どのように作るの？

煙突の取り付け方によって形は違いますが写真の例では煙突の部分だけ住居の壁を四角に掘り込みます<sup>(3)</sup>。つぎに砂を混ぜた粘土で煙突の手前に高さ30cmほどの「ハ」字の囲いを作り、上にも粘土を貼って、そのまんまに丸い掛け口を開ければできあがりです<sup>(2)</sup>。なんとなく洋式トイレみたいなかっこうです。カマドの廻りには鍋釜・蒸籠やお椀などが残っていて、当時の台所のようなすがよくわかりますね<sup>(1)</sup>。

（谷）

「いままでおれたちは、この石のことを知らなかった。だが、この石を使えば、いまよりもっと切れあじのいい道具ができるぞ。」

仲間たちは、ふしぎそうな目で、その黒い石をくいいるように見つめるのだった…」

黒曜石は、火山の噴火が造りだした天然のガラスです。このような事件があって、石器の材料として使われたのでしょうか。（落合）



## 収蔵遺物コーナー

今回紹介する遺物は、千葉市緑区土気<sup>とけひがし</sup>の東大野<sup>おおの</sup>第3遺跡から出土した「ペンダント」です。長さ4.2cm、幅2.6cm、厚さ0.7cmで、穴が2か所あります。下端は、割れて再加工したようです。約50cm離れたところから管玉<sup>くだたま</sup>も出土しました。この遺跡からは、縄文時代の竪穴住居跡と土器片を出土しており、「ペンダント」もこの時代の物と思われます。縄文時代の「ペンダント」は大変珍しいもので、近くにお墓でもあったのでしょうか。（相京）



## 楽しい体験発掘

平成5年7月30日(金)に千葉県立千葉<sup>ちやう</sup>聾学校の児童6名と引率の先生5名・保護者10名の計21名が伯父名台<sup>おじなだい</sup>遺跡で体験発掘をしました。当日は、とても暑く、しかも好天が続いていたため、土がだいぶかたくなっていたのですが、みなさん、とても熱心に住居跡と溝の発掘に取り組みました。午後からは、千葉調査事務所で整理作業のようすを見学した後、実際に土器の復元作業も体験しました。多少なりとも、埋蔵文化財について理解してもらえたのではないかと思います。（菅原）



千葉市伯父名台遺跡

## お知らせ

### 創立20周年記念事業

当文化財センターは、今年で創立20周年を迎えることになりました。そこで、記念事業として記念講演会・出土遺物展を計画しています。ふるってご参加ください。

記念講演会 期日：平成7年2月10日(金)

場所：千葉県教育会館

出土遺物展 期日：平成6年11月12日(金)～20日(日)

〈ただし、14日(月)は休館日〉

場所：成田市中央公民館

### 編集後記

おかげさまで、当文化財センターも今年で創立20周年を迎えることができました。年を重ねるごとに充実し、貴重な遺跡が発見されました。さらに、本誌もみなさんに愛されるようがんばってまいります。（横山）